

ルール・ガイドライン整備チーム

# PI 泣かせの研究データ管理を DMPベースで如何にアシストするか

– 研究データ管理において PI が抱える課題 –

松原 茂樹

(名古屋大学情報基盤センター)

# (前提) 研究室の活動と研究データ

- **研究方略の典型**
  - 「データセット作成・入手」 ⇒ 「モデル生成」 ⇒ 「評価セットで効果検証」
- **研究メンバーとプロジェクト**
  - 教員（2名）, 学生（10数名）, 共同研究者（数名）
  - 学生と教員を含んだ **3** 名以上で構成されるプロジェクトが **10** 個程度
- **研究データ**

準備～実験	報告・共有	成果公表
<ul style="list-style-type: none"><li>• データセット</li><li>• プログラムコード</li><li>• 実験記録</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• 報告資料</li><li>• 参考文献</li><li>• 出力データ</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• スライド, ポスター</li><li>• 学術論文</li><li>• 研究データ</li></ul>

# 「研究室」のルール

- ・研究データ管理
  - ・個人管理（ローカル, クラウド）
  - ・研究室管理（ローカル, クラウド,  GakuNin RDM）
  - ・大学管理（機関リポジトリ,  
研究データ保管システム）

## 日常（保管・共有）

- ・保管：ローカル/クラウド
- ・共有：クラウド

## 発表（公開・利活用）

- ・公開：機関リポジトリ
- ・利活用： GakuNin RDM

## 離籍（長期保存）

- ・長期保存：ローカル,  
研究データ保管システム

# 「大学」の方針・指針（計画，保存，公開）

## 研究データの管理・公開・利活用ガイドライン [2025.3]

<https://rdm.nagoya-u.ac.jp/html/research-data-guidelines-open/>

- PI の役割と責任を明記

### • 研究データの管理計画（DMP）

- 名古屋大学 DMP ガイドブック ※策定中

- プロジェクトの管理ポリシー（格納場所や共有設定）、データごとの管理計画

### • 研究データの長期保存

- 名古屋大学 研究不正防止策（研究データ10年保存の実効性）

<https://www.aip.nagoya-u.ac.jp/risk-management/fair/fair>

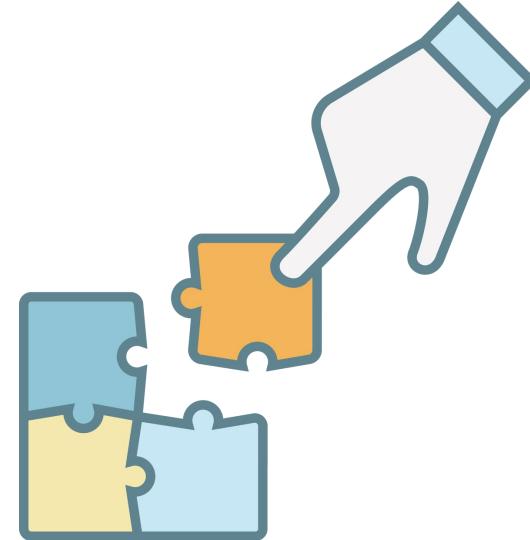
- 責任著者（≒PI）は、研究データ保管システムに論文と根拠データを保存

### • 研究データの公開

- 名古屋大学 学術機関リポジトリ（を推奨）

<https://nagoya.repo.nii.ac.jp/page/data>

- リポジトリ登録申請フォームにメタ情報を記入



# 「PI 泣かせの研究データ管理」とその解決



## 1. (実施時) DMPがグループ内に周知徹底される

- DMPの目的：研究グループのメンバーが迷わず行動できること
- 研究データ基盤においてDMPが中心的役割を担うこと

## 2. (公開時) DMPに研究データのメタ情報が記録される

- 生成/利用した研究データの経緯・ライセンス・機密性等の情報
- オープン・アンド・クローズ戦略の実践

## 3. (長期保存時) DMP にデータ管理状況が反映されている

- 研究の進展に合わせ研究データの管理計画を更新できること
- 論文と研究データ間の関係が明示されること（が望ましい）